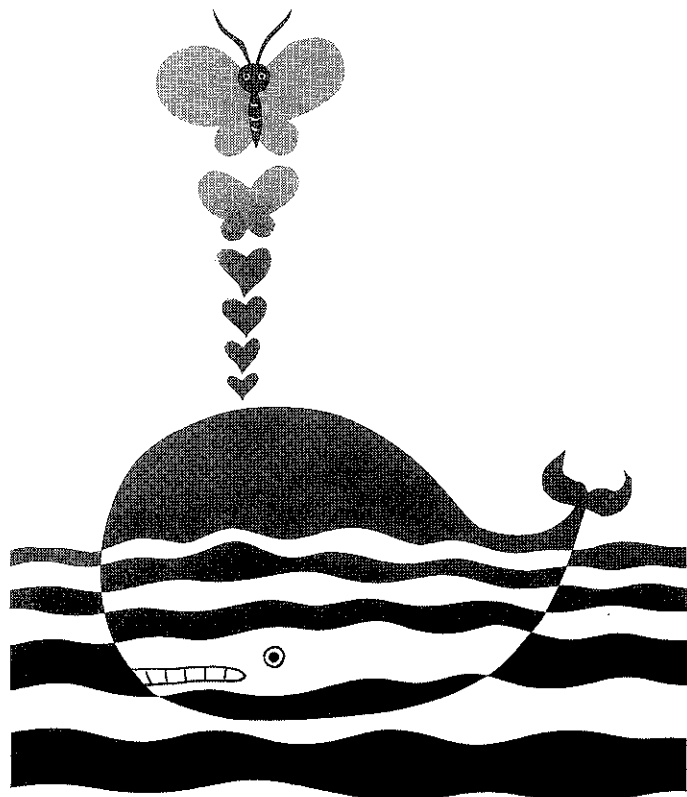


# 東京桑野会会報

●1999年4月1日発行●発行・編集人 澤田 悌●発行所 東京桑野会事務局 〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-3-8 YKB 新宿御苑 804



No.21

イラスト：本信公久（74期）



## ご挨拶

東京桑野会会長  
澤田 悌

- ①桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること
- ②会員はみんな仲良く相親しみ楽しい会であること
- ③何んらかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

東京桑野会会報第21号をお届けするに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年の会報第20号巻頭のご挨拶で、バブル崩壊の傷は今なお深刻で経済も金融もそして政治もおそらくは混迷を続けそうですと申しましたが、不幸にして私の心配は現実のものとなり、更に今後の景気見通しも楽観を許さない状況です。

わが親愛なる安積同窓の皆様もこのような世相の中で色々ご苦心の事も少なくなかろうと拝察いたします。しかしおそまきながら次々と打ち出

された日本経済再生の諸施策、特に平成11年度の国の大型予算が実効をあげてくれば、経済も金融も徐々に立ち直るであろうと予想しております。

さて東京桑野会は平成11年度総会を来る4月26日に例年通り目白の椿山荘で開催いたします。年々出席の方も増加し嬉しい次第ですが、今年も一層多くの方々のご出席をいただいて盛大な懇親会を開き、母校と郷里を偲び大いに楽しみたいと思います。終りに同窓の皆様の一層のご健康をお祈り申し上げご挨拶といたします。

# 東京桑野会定期総会開催のお知らせ

東京桑野会のメインイベントである、定期総会と懇親会を開催いたします。多数の同窓会員の皆様に参加されますようにご案内申し上げます。

- 期 日 1999年(平成11年)4月26日(月)
- 時 間 午後5時——受付開始  
午後6時——総会  
午後6時30分——懇親会
- 議 題 1. 会務報告の件  
2. 予算決算の件  
3. 役員改選の件  
4. その他
- 場 所 目白 椿山荘  
東京都文京区関口2-10-8 (TEL 03-3943-1101)  
JR目白駅、地下鉄有楽町線江戸川橋駅下車
- 会 費 懇親会費 8,000円(学生・年度会費含む 3,000円)  
1998年度東京桑野会会費 2,000円

東京桑野会は会員皆様の年度会費によって運営されていますので、総会当日ご出席出来ない会員の皆様には、同封の振込用紙で年度会費 2,000円のお振込みご協力をお願い申し上げます。

◇準備の都合もございますので、出欠の返事は同封の葉書で4月16日迄にご返送下さいますようお願い申し上げます。

◇また、連絡もれもあるかと思われますので、先輩、同期、後輩もお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願いいたします。

◇昨年度は、1998年4月28日に開催され、160名近い参加者があり盛況でした。

# 母校便りスペシャル

## ラグビー部花園へ!!

村上 昌弘(85期)

平成10年11月4日、いわきグリーンフィールドで行われた第78回全国高等学校ラグビーフットボール大会福島県大会決勝において、我が安積が平工業を破り、念願の花園行き切符を手に入れた。いわき地区以外の高校が花園に出場できるのは初めてのことである。師走、12月28日、午後零時半キックオフ。対戦相手は16度目の出場を誇る滋賀の常連校八幡工。以下、スカイパーフェクTVより実況中継。

ラグビージャーナリスト 村上晃 氏コメント  
前半(安積7-八幡工17、安積トライ1)

「特にバック3の矢吹、田島、今泉に注目ですね。素早い球出しと、俊足ぞろいのバックス陣による得点パターンに持ち込みたいところです」「ラグビー部は昭和26年に同好会が創設され、一時消滅しましたが、昭和50年に復活し、昭和52年には部に昇格しました。今年創立115周年を迎える伝統のある学校で、福島県では、初めていわき地区以外から花園出場となりました」「県内有数の進学校であり、文武両道、質実剛健、開拓者精神を校訓に掲げているまさに明治の学校です。OBでは高山樗牛をはじめ、まさに日本史の教科書に出てくるような人達を次々と輩出しております」「県大会決勝は、逆転につぐ逆転で平工業を下しております。県内の3つのタイトルを全部取りました」「3番の重量FWの植田君、さきほどからいい突進をしていますねえ」「フランカー6番の面来、創立115周年目の初トライ。欲しかった、夢にまで見た初トライ」「初出場ですが、あまり緊張して

変革を求められる安積!平成13年度より共学化決定!115年の伝統を守るのも安積健児!新しい伝統を創るのも安積健児!21世紀に向かって突き進め!駆け抜けろ!

# 人が、季節が、集います。

## 味

お食事

伝統の味に季節の彩りそえて

- 料亭・錦水
- 松阪牛和風料理・離れ家
- レストラン・カメラア

## 宴

ご宴会

華やかな集いに17の大小宴会場

- 2,500名様までのパーティ、国際会議、ファッションショーなどのお集まりに。
- 最新機能の音響装置。

## 寿

ご婚礼

佳き日に永遠の幸せを誓う

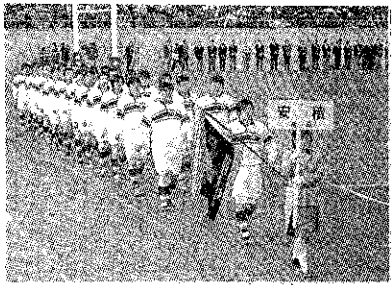
- 800名様までの日本料理、フランス料理、着席ご披露宴。
- 庭園での記念撮影も随時お撮りいただけます。
- チャペルでのご挙式も承ります。



CHINZAN SO  
**椿山荘**  
03-3943-1101

# ラグビー部 花園へ!!

## 安積、初の花園で堂々行進



全国高校ラグビーが開幕  
きょう八幡工(左)戦



好調を維持  
気合も上

## 安積無念、初戦で散る



持ち味、存分に発揮

後半3トライの反撃及ばず  
八幡工に24-34

## ラグビー部、花園初出場

学校長 水野 信

本校ラグビー部は、創部以来初めて福島県の代表として第78回全国高等学校ラグビーフットボール大会への出場を果たし、昨年暮れ28日に高校ラグビーの憧れの聖地ともいえる、東大阪市の近鉄花園ラグビー場にその勇姿を現しました。

16回の大会出場の歴史をもつ滋賀県の八幡工業高校を相手に対戦し、持ち前のバックス陣の快速を生かした鮮やかな展開ラグビーを満場のラグビーファンに存分に披露するとともに、学校創立115年の歴史に新たに金字塔を打ち立てました。

大会出場に際して、安積桑野会、桜桑会、PTA、ラグビー部OB会を主軸とするラグビー部全国大会出場後援会が組織され、ご多忙の中を皆様のご苦勞のもと、多くの方々から物心両面にわたってご支援をいただきました。また、時間を割いてわざわざ花園まで駆けつけていただき、ノーサイドの笛を聞くまで大声援を送っていただきました。ここに紙面をお借りして関係各位に衷心より厚く御礼申し上げます。

ラグビー部の歴史は、愛好会の時代を含

み昭和24年から28年までの第一期と、50年から現在までの第二期に分かれていますが、今回の出場は半世紀に及ぶ部史に燦然と輝く快挙であり、部OBをはじめ桑野会の皆様にとりまして歓喜の極みと拝察します。

生徒とOB会で7台の応援バスを仕立てて花園に勇躍向かいました。普段は机を並べている級友が、晴れの舞台となるグラウンドを縦横無尽に疾走するのを目の当たりにして、声を限りに無我夢中で応援している姿を目にするとき、思わずグラウンドと応援席が一体となったような感動を覚え、青春の真つ只中にいる選手と応援生徒に心の中では拍手喝采を送っておりました。巨漢ぞろいのフォワードがぶつかり合つての一進一退の攻防から出したボールをバックスにつなぎ、華麗なランプレーで一気に前進して陣地を広げていく。これらの状況判断と決断と実行は、プレーしているフイフティーンだけの阿吽の呼吸によるものであるゆえに魅力も倍加し、愛しさが募ります。

60分のすべてに善戦健闘するも、24対34で惜しくも敗退こそしましたが、如何なる難関に遭遇しようとする一人ひとりの強靱な意志があれば、大きな力の塊となって新たなパワーを生み出し、これまで一意専心追い求めてきた理想を現実とすることが実証でき、まさに開拓者精神の神髄を究めたものと確信します。

選手たちの流した汗と涙は、生涯にわたって貴重な宝水となり、これからの自分たちの人生において難関を乗り越えなければならぬ状況に立ち至ったときには、必ずやこれまでの経験を活かしてくれるものと信じるところであります。

ないようですね。よく落ち着いています」  
後半(安積17-八幡工17、安積トライ3)

「攻めにいくと、なかなかいいボールのつなぎをしています。右に左にラインがきれいにそろっています」「3年生のレギュラーほとんどが進学希望です」「田島君は、スピードを落とすのが巧いんですね。緩急の付け方が巧いです」

「最後の最後、バック3が見せてくれました。見事な最後のトライ、意地を見せました。ボールのつなぎが非常にトリッキーで面白いですね。きれいにディフェンスをはずしながらパスをつないでいく。面白いチームが出てきたなと思いますね。花園の新しい顔になってほしい」「非常に面白いラグビーですね。ぜひ来年も出てきて、115周年日の勝利を飾ってほしいものです。安積、来年、頑張ってください」

試合結果：安積24-八幡工34。

後半の3トライ及ばず。惜敗!無念!閉会式でのコメント「初出場校の中でも、安積高校は非常に面白いボールの動かし方をしてきましたね。そして感動させてくれました」

## 会員動向

☆糠沢和夫氏(68期、前経団連専務理事)は、平成10年4月8日付けでハンガリー大使に就任されました。

☆伊藤庄亮氏(72期、前外務省官房付)は、平成10年4月8日付けでガーナ大使に就任されました。

☆湯浅譲二氏(58期)は、サントリー・ホール(東京・赤坂)の企画「国際作曲委嘱シリーズ」の監修者に迎えられた。99年は、湯浅氏自身の作品、その後ジルベール・アミー(仏)等の作品を初演する。

☆東京桑野会元副会長、長谷川輝氏は平成10年6月25日、永眠なされました。つつしんでご冥福をお祈りいたします。



(右から)宮内庁東宮大夫 古川 清  
安川電機社長 橋本 伸一  
三井記念病院顧問 鶴沼 直雄

昭和23年3月、六三制改革により、私も旧制福島県立安積中学(郡山市)最後の4年を修了した。

古川君は外務省でルーマニア、アイルランドなどの大使を歴任、現在は東宮大

夫。要職の大変さに周りには同情するが、中学の頃から頭脳明晰で人の面倒見も良く、心配御無用。

鶴沼君は医学博士となり、三井記念病院副院長まで務めた。『酒飲みの肝臓学』をはじめとする著書も多く、テレビにも引っ張りだこの肝臓の権威。

私(橋本)は銀行に入り、その後縁あって安川電機に転じはや14年目。物もない蛍雪時代は往復3里の徒歩通学、今宵また杯を傾け、朋友多きを楽しむ。

『文藝春秋』'98年8月号より抜粋

## 安高の男女共学化をめぐって

— 中間報告 —

安積桑野会会長 今泉 正顕



東京桑野会の皆様が、ご健勝でご活躍のことをお慶び申し上げます。

いま母校の最大関心事は、昨年東京桑野会総

会で話題になった、平成13年度実施の男女共学化の問題です。

同窓生の中にも賛否両論があり、私どもの推定では賛成派が20%、どちらでもよい派が20%、反対派が60%という割合かと考えております。

賛成派は男女共同参画社会の基本法が制定される時代の流れだから、校名さえ変わらなければ共学でもいいという意見です。

反対派の意見は二つに集約されます。

第一は、義務教育でもない高校を、なぜ今の時期に、県下一律に男女共学化という画一平等化を図るのか。安高に限らず、県内四方部の基幹校として数校の別学の学校があってもいいのではないか。別学校がいいか、共学校がいいかは、志望者の自由選択にまかせればいいという素朴な意見です。

戦後50年、日本の民主主義は、自由競争を嫌って、すべての面で平等だけを追求してきました。経済界で言えば建設業者の談合であり、金融界で言えば、すべて横並びの護送船団方式です。

学校教育の現場では、成績の良い子に優秀賞を授与するのは差別だ。運動会でも1等2等を決めるのは平等の原則に反するという時代ですから、県教委が画一的男女平等化を進めるのは、当然の措置かもしれません。

だが、さすがに文部省もこの平等化、画一化教育の行き過ぎを認めたのでしよう。有馬文部大臣は、就任の記者会見で「戦後の平等・画一化教育は、それなりの効果はあった。しかし、21世紀の教育はそれを打破し、もっと個性化、特色を

前面に出した学校教育にしなければ、これからの国際競争で勝ち抜く人材が得られない」と言明しています。その意味で、男女共学反対は時代錯誤ではなく、逆に新しい時代の流れでもあるという意見です。

第二の反対の理由は、男女共学化によるマイナスの部分です。男性は女性化し、女性は男性化し、教師は叱らなくなりました。ベストセラーになったマークス寿子さんの著書のタイトルのような「ひ弱な男とフワフワした女の国日本」が、本県でもその傾向がみられます。しかも、県教委は「男らしさ・女らしさ」は不必要と言っています。

日経新聞(平成10・12・12)に「米国で男らしさ・女らしさの復権」という記事が載っていました。やはり従来の画一教育への反省の現れでしょう。男女の性差による役割分担の区別をしないことは時代の要請ですが、「男らしさ」「女らしさ」を求めるのは、古今東西、永遠の課題です。

また学力の点でも、福島県の進学率は、全国でも沖縄の上という最下位のランクです。偏差値重視の教育には問題があることはわかりますが、県内に数校のエリート校を存続させるのは、全県下のレベルアップのために必要であるというのが反対派の主張です。

勿論、わが母校の歴史と伝統の継承は言うまでもありません。特にわが母校は、全国でも例のない、「安積開拓」のシンボルの一つとして、町から4キロも離れた桑野村の荒涼とした原野の中に建てられた、歴史的文化遺産の価値を持つ異色の学校です。

「質実剛健」「文武両道」「開拓者精神」という安高の校風こそ、今の日本の教育に欠けたものを受け継いでいる貴重なものと私どもは確信しています。

桑野会として設置した、各期代表による男女共学化検討委員会も、すでに2回開かれ、目下最終的な対応に入る準備を進めています。

政府の規制緩和が簡単に行われなると同じように、県で一旦決めたものは、官僚の体質として、なかなか時代対応に即して、方針の転換をはかるの

は、非常に困難な面があります。

母校出身の知事も、安高だけ特別扱いにするわけにもいかず、大変苦慮されていることも申し添えておきます。

どうぞ東京桑野会の皆様からも、ご意見をお寄せ下さい。

(56期・福島中央テレビ最高顧問)

## 驚愕

市川 竜哉 (第107期)

安積が共学化するという喜ぶべきことか、喜ばざるべきことか。

正直なところ、歓迎はしていない。

「今更、なにをかいわんや」、だ。

共学して、何があるというのだろうか？

進学率アップ、それが主目的だという。男女が共に学ぶ環境が、まともなのだという。共学化を決めた人(達?)は、どんな思想・理念を持っていたのだろうか？

どうも、福島「県」を司る人達の脳の中は数十年、進歩が遅れているようだ。

すでに、経済的な発展は見込めない時代に向かおうとしている。「近代」は終わった。私達は、行政単位、国家、国民としての目標(戦後なら経済的繁栄のことである)は既に達成し終えた。…ということを経験に耳にする。このことに、福島「県」の人間は、気付いていない。(まあ、福島「県」の人だけではないけど)感づいていないし、分かつてもしていない。できるわけがない。

たとえば、日本経済の復興と繁栄のためという大義名分のある時代ならば、高校生の均等化は、必要があったかもしれない。

しかし、今この国では、価値観が多様化しているように見えて、実はおそろしく均質している。コンビニエンスストアに並ぶ、週刊誌を読んで欲しい。小学生向けのもの、高校生向けのもの、若い女性向けのもの、中年男性向けのもの…取り上げている対象が進んで、実は同じ基盤に立っている。

今まで「いい」と位置づけられてきた集団（学校や会社などの社会的なもの）に属すること「だけ」では、幸福に生きることでできる時代は、すでに終わっている。

それを誰かに（たとえば子供に）示していない。示すこともできない。

そんな時代で、何が進学率であろう。今から、数十年後という遠くない将来、今現在の日本社会ををになっている人達は、強烈なしっぺ返しを食らうはずだ。

安積高校は、この国でも唯一とも言える。異色の存在である。今、安積に生きる高校生には、ほとんど見えてこないだろう。だが、大学に入り、社会に出た時に必ず、知らしめられる。この国の様々な高校で学んだ人々には、決して出来ない。同じ風土にある福島県の他の男子校にもない。福島県以外の男子校にもない。そういう希有な三年間であったことに、必ず気付く。

そして、その安積の安積たる由縁の義は、やはり「男子校」であるから。それしかないのだ。

その無形文化というべき安積が、あの県の馬鹿どものせいで、消滅するかもしれないのだ。私は、悔しくてたまらない。

ここまで、その「馬鹿ども」への批判を書き連ねてきた。もうよかろう。批判だけで終わっては、その愚か者達が受けて、後生大事にしてきた、戦後民主主義教育的になってしまう。

サイは、投げられたのだ。

「どうすれば安積の『安積』たるものを守ることができるか」

『安積』を愛するなら、この命題に対する答えを求めなければならないだろう。女の子が入ってきて、『安積』を守るにはどうするか、を考えていこう。

郡山の二つの進学・別学高が、共学化された場合、中学教師と中学生と親の進学意識は、どう変わるであろうか？

私は、ある夢想をした。

……女の子は各学年に、一割しかいない。約30人×10クラス=300人。うち女の子は30人。各クラスに、3~5人く

らい。理系はもちろん少ない。

この高校に入ってくるのは、全員、大学を目指す。進学校だからだ。もともと学区には、二つの進学校があり、それは男子校と女子校だった。私が生まれた頃、その二校が共学化された。安積高校は元男子校、もう一つの進学校、かつみ高校は女子校だった。

共学化された後も、男子は安積、女子はかつみ高校（注：安積女子高が、共学化の後の新校名。筆者の勝手な命名）に大抵は、行く。でも、かつみ高校は、男女比が3:7。安積が9:1なのに比べると、開いている。それは、男の方が異性の多いところに行きたい傾向にあること。安積とかつみに続く、郡山と郡山東は、以前から女子の受け入れがあったこと、そして、安積の校風が女子には合わないこと、それが理由ではないか。

女子が少ないと。女の子は群る傾向がある。グループってやつだ。安積は女子が少ない。これだと、必然的にその女子達でグループを作るかという、そうではない。グループというのは、ある程度大人数の集団があつて、その中でタケノコのようにできる。多分、オンナの対抗心とか防衛本能とかが働くからだろう。頭のいい子なら（偏差値じゃなくて）、安積に入ってから、そういうものが存在しない、「存在させない」のが分かる。あるいは、受験の時に安積にはないことを認識した上で、入ってくる。中学までにオンナのそういう部分に嫌気が差している子は、そうだ。

それが分からないと、辛い、——先生という、世界史の先生が授業の時に「安積は伝統的に個人主義だから」という話をしてくれたことがある。ここには、いじめは存在しない。そういう人間関係は必要がない。一人ひとりが、大学受験を根っこにおいた、各々の目標に行く。悪く言えば、自分しか興味がない。「いじめ」とかというものが、自分にとって情けなく、あほらしい行為であることを知っている。

安積とかつみ高校は進学校だけど、元男子校の安積の方が、進学実績で分

がある。それで、受験の時に偏差値で安積を選ぶ、コもいる。そんな単純さで選んでしまったコの方が、後悔するパターンが多い。

（安積出身のある友人に、戯れて書いた電子メールから。共学安積高校に編入してきたという女の子の視点から書いた。）

…『安積』が生き残るには、やはり、ある種の女の子はネックになる。断っておくが、これは差別的ものいいようではない。特に高校生という思春期、男女を問わずに異性の目を意識してしまうのは、必然である。安積の『安積らしさ』は、そういう「対異性意識」を排除した、パワーにある。

恋愛は必要である。しかし、この必要は「十分条件」である。「絶対必要条件」ではない。人生の全てが恋愛である人間は、ヒマな人間なのだ。

共学安積には、「異性」との距離をうまく取ることのできる、女の子が必要だ。（もちろん、ヤローどももだけど）恋愛よりも、己が目標に邁進するのだ。

さらに共学化直前直後の安積高校生に要望。共学初年度の一年生に、『安積』を示せ。いや、示してください。そして、それを伝えることのできる土壌を、用意してやってください。そうすれば、先に上げた「恋愛二次要素説」も、伝統・校風になります。

具体的な戦略に欠ける内容になりました。私も、ただ遠くの地から、母校が愚者共に荒らされるのを、手をこまねいて見ているのは辛い。だから、現在中学2年生の従弟を安積に入れるべく、工作中です。彼は、県北学区の中学生です。安積は学区外になります。しかし、安積高校と福島高校を比較し、昨年度の安積卒業式ビデオを見せ、野球の応援を見せ、花園決定のなだれ込みを見せました。かなり、迷ってます。あと、一押しです。こいつを安積に送り込み、『安積』の要職に就かせませず。

その昨年度の卒業式のビデオ。閉会の言葉の後の、あの「大進撃」。（あと、タイガーの正体ばらしも）僕は、涙を拭きました。

「こいつらがいる限り、安積は大丈夫だ」  
花園でも、開成山でも、泣きました。  
安積は、多分大丈夫です。

世間や過去というシガラミを、若い者は嫌悪する。それでも『安積』という5年前に、自分との関係性のほとんどを失った集団に、何らかの感情を持つ。私だけでない。卒業式では、ほとんどの卒業生がステージに向かう。卒業したものは、夏になると甲子園を渴望する。野球部と何らの関係もなかったものですら、試合の応援に、ある者は49号線を西に走り、ある者は東北本線を北に行く。

共学を推進した愚か者とは、言葉を交わしたくも、顔を見たくもないが、もし一つだけ聞け、というのなら聞いてみたい。

こういうことのできる人達が、あなたの母校にはいますか？

こういうことを慣習している高校を、あなたは知っていますか？

こういうことを書ける人達が、あなたの母校にいますか？

(二松学舎大学文学部国文科4年)

## 安積高校の男女共学化について

東京花かつみ会 高校18回 森田知子

この問題について原稿の依頼を受け考え出したのだが、正直のところこれが絶対であるという考えは浮かばず、頭の中は何日も空回りするばかりだった。しかし、格好をつけてみても始まるわけではなし、みっともないことは覚悟で考えをまとめてみたいと思う。

結論から言えば安高の男女共学化は反対である。福島民報の論説や安積桑野会会長の参考資料にも目を通した結果だ。ものわりのいい人なら男女共学化を認めると思う。それにこの問題は、県教育委員会の定例会で決まってしまったのだから、今さらどう言っても覆すことはできないのではないかと。仮にディベートをすればしたら、男女共学賛成、容認派の方が勝利しやすいように思う。が子供の喧嘩ではあるまいし、これは勝ち負けの論議ではない。

安積高校百年の歴史を紐解けば、優秀な多くの逸材によって織りなされた大パノラマが展開されているように思われる。それらの逸材は、安積高校という男子校の長い伝統の中で培われ育まれてきたのではないだろうか。男子だけだったからできたということがたくさんあるように思う。男の友情を育むこと、異性を気にせず勉強やスポーツに集中できること等々。もっともそれは女子校である安女についても言えることで、安女は安女ならではの良さがたくさんある。女子校は、女子のみで運営される訳だから、女だから、…をやっつけられない式のタブーがない。社会に出てしまったらあまりさせてはもらえないようなこでもできる。自立心を養うにはとてもよい環境である。例をあげていけば限りないほどある。

全国の公立高を見てみると、別学をとっているところがまだある。全体からすれば共学3700校に対しわずか141校である。しかし存在している事実を否めまい。

高等学校はまだ義務教育とはなっていない。理屈ではあるが、高校へ行く行かないは自由である。また、どの高校へ行くかも自由に選択できる。行政がその選択の巾を狭くしてしまっているのだろうか。共学がいいと思う人は共学を選べばよいのだから。

人生の中のたった三年間でしかないけれど、この時期でしか経験できないことをこれからの子供達にも経験させてやりたいと強く思う。個性があり特色のある男子校、女子校が存続してもいいのではないか。それか、エリート校エリート教育というなら、それはそれでもいいと思う。社会には立派なエリートが必要なから。言葉を換えて言うなら豊かな人間性と教養と兼ね備えたリーダーとでも言うべきか。

私には、別学校をなくしてしまう理由が見当たらない。今の社会的風潮すべてを平均化することに対しても大きな疑問を感じている。制度や社会が大切な個を潰してはいけないと思っている。

(昭和45年明治大学法学部卒業  
元埼玉県立大宮高校PTA会長)

## 安高文化について思うこと

小林 伸久 (84期)

昨年のNHKの大河ドラマは徳川慶喜が主人公の「最後の将軍」でした。最初は、あまり見ていなかったのですが音楽が安高の先輩の湯浅譲二さんであることを知り、その後は最終回まで続けて見ました。

その湯浅先輩とは、昨年東京桑野会の懇親会で直接話をする事が出来ました。私は高校2年の秋から合唱部に所属してましたが、なんとその合唱部そのものを作ったのが湯浅先輩とのことでした。短い時間でしたが楽しい時間が持てました。

私が東京桑野会へ入会したのは一昨年のものでしたが、その時は仕事の都合で懇親会には行けず、昨年の懇親会が初めてでしたが、160名もの先輩・後輩が集い懇親会は盛況でした。ただ、同期生の顔を(84期)みられなかったのは残念でした。

さて、そんな東京桑野会について、今私が考えている事を少し書かせて頂きます。私は、昭和46年に卒業後上京し大学生時代の4年間と社会人としての1年間を東京で過ごした後、郡山へいったん帰りました。当時福島県に県立美術館を作る計画があり、そしてそれがあたかも当然の事のように福島市に設置されようとしていることをひるがえし、画家、彫刻家、書道家等の美術関係者を中心に「郡山に美術館を作る会」が結成され、文化の中心地は福島県の地理的条件を考えれば郡山であるべきとの主張のもとに県立美術館の誘致運動が展開されました。私自身は別に絵を描く趣味を持ち合わせていた訳ではありませんでしたが、絵画や彫刻を見る事は人一倍好きでしたので、清水台の事務所に署名運動の用紙を何度か貰いにいくうちに自然と会の事務的な事も手伝うようになりました。結局県立美術館は予定通り福島市に決定してしまいましたがその後郡山には市立美術館ができました。

当時の私が感じていたのは、東京と

郡山の文化的環境があまりに違うという  
ことでしたが、今でもその状況はあ  
まり変わっていないように思います。  
そういう状況を少しでも良くするため  
に何か私たちの力で出来ることは無い  
のでしょうか。東京桑野会に多くの  
方々があり、そして今では2万6千名も  
の安高卒業生がいることを知ってそん  
なことを考えています。まだ具体的に  
何をというところまでは至ってませ  
んが、そろそろ自分を育ててくれた郷  
土への恩返し、言葉を代えて言うなら  
ば文化の還流をほんのちよっぴりでも  
出来ればと思います。110年を越える安  
高の歴史はそれだけでも一つの文化だ  
とも思いますし、男女共学化というこ  
とが同窓生の間でも話題になっていま  
すが、本来の安高文化というものがあ  
るとすればそれは現役・卒業生を含め  
た同窓生の心の中にこそあるのでは  
ないでしょうか。それを具体的な形に  
するための何らかのお手伝いができ  
れば幸いです。

(江戸川木材(株)建装部次長)

## 残すべきもの

熊田 広樹 (111期)

1998年12月28日。私は東大阪市の花園  
ラグビー場にいた。歴史的な花園初出  
場を決めたラグビー部を応援しようと、  
放送委員会時代の先輩3人と共に東  
京からやって来たのだ。花園では、お  
世話になった先生方や懐かしい友達と  
再会することもできてとても楽しかつ  
た。そして、安積を愛する人たちの中  
で我を忘れて応援していると本当にい  
い学校を卒業したなど心から思えたの  
である。全国の舞台であの応援団の姿  
を目にしたとき、私の心はあつという  
間に安高生時代にタイムスリップし、  
なんとも言い難い感動が込み上げてき  
た。これが安積なのだ。私は胸を張つ  
て言える。

私の家は23期の祖祖父から4代続けて  
安積の卒業生である。筋金入りの安積  
ファミリーなのである。108期の兄がい  
たこともあって、私は入学する前から

安積についてある程度知っていたし、  
自分も兄と同じ学校に行くのだと漠然  
と思っていた。しかし、私が安積に入  
りたいと強く思うことになったのは私  
が中学3年生の時の夏であった。この年  
の安積の野球部は快進撃を見せ、バス  
ト8まで進んだ。テレビ中継を見ていた  
私は時折映るそのワイルドな応援に心  
が揺さぶられるのを感じた。あの団結  
力は中学生の私には異様にさえ見え  
た。それと同時に私もあそこに混ざつ  
て応援したいと思ったのである。安積  
に入学すると私は行ける試合はすべて  
見に行った。夏の大会でバスが出な  
かったとき、電車で福島まで行ったこ  
ともある。そして卒業してからも行つ  
た。応援に行くことで何か忘れていた  
自分を取り戻すような、そんなことを  
しているような気さえする。他人から  
見れば気違いかとも思われそうだが、  
私には同じような仲間が何人もいるの  
で心強い。野球部が甲子園出場を決め  
たら、徹底的に計画を立てて、人間を  
集め、1回戦から決勝戦かと思わせるぐ  
らいの超満員の中でプレーさせてあげ  
たい。安積ならできると思うし、安積  
だからこそできることなのだと思う。

前置きが長くなってしまったが、ど  
うやら男女共学になるらしい。私は東  
京にいて情報があまり入ってこないの  
で詳しいことはよく分からないが、何  
だかずいぶん話が急だなどというのが本  
当のところである。そんなに急がなく  
てはならない問題なのだろうか。しっ  
かり議論されて決まったことなのだろ  
うか。男女共学を進める理由の1つに  
は進学率の向上といったこともあるよ  
うだが、何だか理由探しをしているよ  
うに聞こえてならない。例え、それが  
本当の理由であるにしても実にくだら  
ない考え方に思える。学歴社会の歪み  
が露呈されてきている今、敢えて時代  
の流れに逆行するつもりなのだろう  
か。また、確かに福島県は男女共学化  
が遅れている。しかし、他県に足並み  
をそろえるという理由で、男女共学を  
推進したら何の個性もなくなってしまう  
ではないか。男子校、女子校と分か  
れているからこそ残るおもしろさとい

うものもあるのではないだろうか。個  
性の教育が叫ばれている今、これまた  
時代の流れに逆らって画一化を進める  
つもりなのだろうか。教育の問題を語  
るとき、一見すばらしそうに見える改  
革には必ず裏があることを忘れてはな  
らないと思う。と、どうしても感情的  
になってしまうのだが、そうしてばか  
りもいられないので、私はもし共学に  
なった場合のことについて書きたいと  
思う。安積は確実に変わるだろう。変  
わるのが問題なのではない。どう変  
わるかが問題だ。どこにでもあるよう  
な普通の高校にだけはなつてほしくな  
い。安積が誇れるものは何かを考え、  
話し合い、それらを積極的に残して  
いってほしい。現役生にとって安積は  
今現在自分たちがいる所だし、それが  
当たり前に見えるから、安積のいいと  
ころを探すのは難しいかもしれない  
が、安積を出てみると改めて安積の良  
さが分かるものである。大学の友人と  
話していても、このような学校は珍し  
いと誰もが驚く。自由な校風。応援。  
いい意味での個人主義。これらを失わ  
ないためにも、目標を定めて学校をつ  
くって行ってほしい。どんな学校を目  
指すのかという目標を。OBがいくら  
言っても結局、安積を変えていくのは  
現役生である。これからも、活発な意  
見交換が行われ、行動力あふれる現役  
生が安積を楽しくしてくれることを期  
待している。そう言いつつも、私はこ  
れからも応援に行き続ける。なぜな  
ら、それは安積が未来へ残すべきもの  
だから。

(上智大学)

## 共学化についての私見

上田 隆弘 (105期)

共学化についての私なりの意見を述  
べてみたい。

我々、安積のOBの立場としては、共  
学になることについて、複雑な思いを  
持つのではないだろうか。というの  
は、私が生徒だったころは、共学に  
なったら嬉しいなと思ったものである

## 特集●安積高男女共学化問題

が、卒業して改めて「安積の良さ」を再認識してしまった立場としては、この良さを残しておきたいというのが本音だからである。

しかし、共学化が決定となつてしまった今、反対意見ばかりを述べていても仕方がないという思いも、私の心の中にあるのである（共学になるということは早くから問題となつていたのであるから、決定される前に動いていればよかつたのにと残念で仕方がない）。それは、なにも、もう決定されたことだから、反対しても仕方がないといっているわけではない（本音は、先に述べた通りである）。ただ、決定事項は覆ることはないだろうと思つてしまうのである（反対すれば反対するほど、強行に進めようとする、そのような人達がいるのが常ではないか）。

であるならば、「共学化」について、我々は客観的に考えなければならないのではないだろうか。

安積が共学になったと考えたとき、一番危惧するのは、東京桑野会や安積桑野会が反対してしまつていたら、安積に入学した女子生徒は、肩身の狭い思いをしてしまうだろうし、卒業してOGになったとき、同窓会に気軽に参加することができないだろうということである。これは問題である。それでなくとも、同窓会に若い期の人達がそう多くは参加してはいないのに、況や、男ばかりの会、それも共学化に反対した同窓会に女性が参加しにくくなるのは、蓋し当然のことであろう。このようなことも考えなくてはならない。現在、安積桑野会の方では、自分たちの立場を明確にしようとしている

（もう、明確にしたかもしれない）たしかに賛成、反対を打ち出すのは簡単なことである。しかし、将来の安積のあり方を真剣に考えること、女子生徒が入ってきて、安積らしさを維持すること、これを考えることが重要なことではないだろうか。高山樗牛の「吾人不須不超越現代（吾人は須く現代を超越せざるべからず）」という言葉も、思い出さなければならぬのではないだろうか。

そして、このことを我々以上に考えていかなければならないのは、安積にいる在學生であり、これから入学してくる未来の安高生である。彼らに期待するや切である。本気で考えてほしい。

（二松学舎大学大学院）

### 安積の共学化について思う

後藤 大 (107期)

質実剛健な女子高生、あまり見たくないものに入るのはないだろうか（失礼な物言いだが）。しかしあとしばらくすれば、文武両道、質実剛健、開拓者精神の安高魂を受け継ぐ女の子が誕生することになる。

安積が共学になると聞いて、僕は正直、複雑な気持ちになつた。おそらく安積の学び舎で貴重な青春時代を過ごした人間ならば、誰しも少なからず同じ気持ちをもっているのではないだろうか。僕の場合、自分の青春が多少なりとも美化されていることを差し引いても、自分が過ごした豪放、パンカラな校風が異質なものと変化してしまうのではないかという寂しさ、人に

よつては自分が高校生だったときの女性への憧れを思い出してほんの少しの羨ましさを持つかもしれない。

単純に言えば、果たして安積は安積であり続けることができるのだろうか、という心配だ。愛着があるからこそ変わらずにいてほしい。良くも悪くも安高らしさを失つてほしくない。個人的には共学にしてなにかいいことがあるとも思えず、否定的な見方しかできない。そもその趣旨がわからないので批判のしようもないが、男女差別だともいいたいのだろうか。別学には別学のよさがある。同性しかないことから生まれる連帯感、盛り上がりは共学高では得られなかったものだろう。

もつとも、矛盾しているといわれようとも後輩に女の子がいるのは嬉しくもある。先日、日本経済新聞に早稲田大学の卒業生が、人気アイドルの広末涼子の入学に関して「今までなんとも思っていなかったが、後輩になると知った途端にかわいくなった」というような話を載せていた。それと同じ心理だ。東京桑野会の110周年記念行事の時に、司会を引き受けてくださった中井美穂さんを見て、彼女のような後輩がいたらなあ、と思つた人は少なくないと思うのだが。

そこで、ふと気づいた。質実剛健な女性なんて最近の僕らの周りにはいくらでもいるのだ。まったく、遅くないのは男ばかりではないのか。この分では安積の精神を受け継ぐのは女の子ばかりになってしまうかもしれない。共学を控えた今となつては、後輩の男子生徒諸君が彼女たちに負けないように、楽しい安積での日々を過ごすこと

**0120-821-110**

トランクルーム

**家財保管**

転勤・改築・建替等

FAXでも受付しています

**0120-856-110**

東京センター ☎ 0120-822-110

多摩センター ☎ 0120-823-110

千葉センター ☎ 0120-824-110

埼玉センター ☎ 0120-826-110

神奈川センター ☎ 0120-827-110



**いいわ**

**引越センター**

遠藤征志郎  
(72期)

本社 東京都府中市白糸台1-23-10

関自振第177号



を願うばかりである。

(早稲田大学)

## 安積の男女共学化について

(情報と検討課題)

柳沼 八郎 (50期)

《はじめに》

私がここに取上げる問題は、男女共学一般の問題ではない。すでに福島県において進められている「平成15年度をめどにすべての県立高等学校を逐次、男女共学にする」という県教育委員会の方針が決定(平成9年6月)され、さらにその実施年度として、平成13年度には安積高校・安積女子高校が(磐城の男女両高校とともに)共学化される年次計画が決定(10月7月)をみている現実をふまえてのレポートである。《全国状勢等》

平成10年度版の全国高等学校一覧によれば、国公立の総数3793校中男子校は48、女子校112、共学校は3633であって、共学率は95.8%となっている。

わが福島県では、全校数88に対して男子校は4、女子校は7、共学率は87.5%であって、全国では共学率の低さが第6位である。因に最も低いのは群馬で66.2%、隣県宮城がこれに次ぎ、同じく栃木は3位である。共学率100%は北海道をはじめ22道府県であり、東京には男子校2と女子校1が残っている。形の上では福島県の遅れは相当なものである。

《県教委の方針決定の経緯と県・市民の声》

平成3年9月になって、県教委は「学校教育審議会」に対して「男女共学の在り方について諮問し、公開での審議」があつて、5年6月には「本県にお

いても早急に具体策を検討し、逐次共学化を具体的に進めていく必要がある」との答申を受けた。

その一方で県は「ふくしま新世紀女性プラン」を施行し、その一環として、県立高校の男女共学化を掲げ、さらに8年4月には県立学校改革推進班を設置し、6月の県議会では教育長の答弁として、「すべての県立高等学校の男女共学化を実施することを基本として進めること」を明らかにした。進んで平成9年6月の「改革計画第1次まとめ」の策定となり、本年7月の実施年次計画決定となっている。

これら一連の動きは、前後数回にわたって事ある毎にマスコミによる報道がかなり大々的になされている。

要するに、残された県内県立高校の男女共学化は「もはや時間の問題」というのが現情勢である。

にもかかわらず、このような県教委・県議会の動きに対し、当の高校サイド、PTA、地域住民からはこれまで、殆ど批判・反対の声は上っていないというのである。

《安積の生徒たちの動向》

10年3月1日発行の『安積高校新聞』の「安校共学化特集」によれば、①安積の共学化には賛成=24.9%、反対=35.5%、「関係ないね」が39.6%と賛否が岐れ、しかし「安校が共学になることについては」になると事情が違って、「安校は伝統を守るために男子校であるべきだ」が37.2%と最も多く、「大きな利益となるので」の14%と「いろいろリスクがあるが、それでも共学にすべきだ」の15%を合せた29%よりもかなり男子校維持論が優勢である。

尤もこれらのアンケート回答が40.9%の回収率であることに加えてアンケート実施時期(1月という)との関係で、必ずしも現在の生徒たちの認識が正しく反映されているとは考えにくい。しかし、この特集を組んだ新聞委員会の諸君の紙面にみまざる真摯にして、なかなか要領のよい設問設定など、真面目な取組みにはある種の感動さえ禁じえなかった。流石安積の健児たちである。

ここで重要なことを指摘すれば、福島県の場合、この共学化の進行が県民からも、学校からもこれを求める声が上がったためという事情にはないという事実である。いわば文字どおりのオカミ主導の共学化推進というほかはない。

なお、私は、12月18日には、県の教育庁に出向いて、予め出しておいた質問事項をめぐる取材の対話を試み、多くの資料の提供も受けてきた。おかげで知事にも表敬できた。

《安積桑野会の動き》

肝心な母校校友の中心である安積桑野会では、秋の定時総会(小生も出席)以降、この問題に対する会員の意見を集約すべく、各期2名代表による検討委員会が組織され、活動が開始されている。第1回(10/20)には県教委(教育次長・課長諸氏)からの経過説明を聞いており、次回12月21日からは委員らによる本格的討議が行われる予定とさく。

《安積の共学化を考えるスタンスと視点について》

以下、私の本題に関する若干のコメントを附記して参考に供したい。

(1) 高校教育(後期中等教育)その



写真:  
2台のロボットが協調作業で  
ビールをグラスに注いでいます。



株式会社 安川電機

取締役社長 橋本 伸一 (63期)

本社 北九州市八幡西区黒崎城石2-1 〒806-0004  
TEL093-645-8800

ものに男女別学も共学も法制上決められてはいない。その選択は地方（県立なら県）の自主性に委ねられている。したがって新規設立ではなく、すでに110年余の男子校安積の歴史と伝統の上に立ち、むしろ21世紀にあるべきよりよき男子校を目指すものと考えればどうか。（積極的維持論）別に共学反対からの発想ではない。

(2) 県内に残るべくして残っている男子校5校が、もし在校生と卒業生が一体となりそれに地域市民（周辺も含めて）らも挙って男子校の存続を望み、出身の県議らを動かすことができればともに協力して運動を進め、然らざる場合にもわが安積の地理的位置（県中央）、輝かしい伝統と実績、歴史的旧校舎の存在という特有の条件に照らして、安積の男子校維持継続には合理性があるとは考えられないか。（全国的・県内的な試験校としての存続論）

(3) もし地域の住民に共学を切望する向きがあれば、私立はもちろん、すでに共学が実現している県立高校を選べばよいのであって、在校生、校友らの望まない共学化を、画一主義を貫くために行政から強いられる理由はないのではないか。郡山地方では、県立郡山高校と同女子高校が本年度に、郡山東高校として共学化されている。

(4) 教育制度は所詮、人間社会にとって永遠の文化的試作品ではないだろうか。個性と多様性の尊重の観点に立って、男子高校が県立として認められても決して不思議なことではないのではないか。

《結び》

親愛なるわが東京桑野会会員諸兄、

今からでも決して遅くはないと思われ

ます。会員ならば今こそ、この共学化問題を傍観せずに、明日の母校と県教育の水準向上を目指す自らの選択の問題として取組んでいただきたいと思ひます。

東京桑野会としては、早急に会員の意向を汲み上げるために適切な手立てを講ずべきではないでしょうか。

1998.12.23記（弁護士）

## もっと自然に

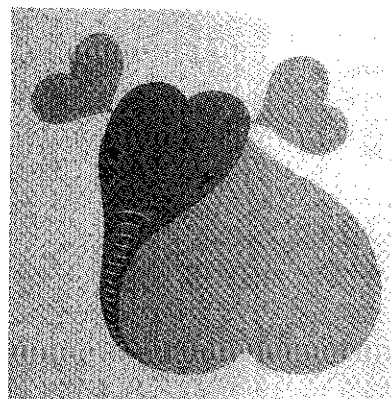
橋 光俊（74期）

安積高校が男女共学になる事は、どう思うかという事ですが、私にとって、安積高校の学校名が変わる事が気になります。郡山女子高校が男女共学によって、東高校に変わってしまいました。せめて学校名が変わらぬ事を祈ります。高校名が変われば卒業生にとっては、自分の卒業した学校がなくなってしまうような寂しい気持ちになってしまいます。ひとつの歴史に終止符が打たれ、新しい歴史が始まります。男女共学は教育の方針によるものでしょうけれども、男女平等が基本という事で職業募集のチラシでさえ、変わらざるをえない状況になってきております。

仏教の世界では、お釈迦様は人間すべて平等の考え方に立っており、女性が仏門に入る事に関しては、比丘（男僧）の修業の妨げになるということで、なかなか許しが出ませんでした。男女平等を説いたお釈迦様であったが、男女平等の社会運動まで発展させる事はなく、お釈迦様の死後は、益々男尊女卑の傾向になり、中国や日本に仏教が伝って、益々顕

著になりました。現在の仏教の中では、平等な立場で修業できますが、大峰山の修業だけは、女人禁制になっております。この事も西暦二千年には解かれるような状況になってきております。男女共学は、中学校からの延長でしょうが、男女の協調性、国際的な男女平等の意識改革につながる事でしょう。男女共学の教育の中で、親抜き生活を望む教育ではなく、親を大事にする教育であれば、福祉も本当の弱者に対しての福祉で、子供達の負担が軽くなるのではないのでしょうか。もっと自然にやさしく、自然を大事にする教育や、倫理を越えた科学は、人間としての大切な問題になる事でしょう。学校の教育や、家庭での子育ての中で、倫理の問題として、男の子は男らしく、女の子は女らしく育てて欲しいものです。 合掌

（華業山 成就院住職）



イラスト：本信公久（74期）

次はこれだ。

ビジネス・コンサルティング  
斎藤嘉則（第86期）  
による  
ビジネススマン必読の書！

大手企業が続々採用。  
問題解決の定番！

「問題解決  
プロフェッショナル」

（ダイヤモンド社刊 ¥2330+税）

大手書店でベストテン入り。  
戦略構想の決定版！

「戦略シナリオ」

（東洋経済新報社刊 ¥2400+税）

★お求めはお近くの書店で。



Business  
Collaboration

朝河 貫一  
一世一代の大「悲恋物語」  
(総集編)  
石川 衛三 (57期)

I. はじめに (緒言)

「謹厳な憂国の志士」といったイメージが一般的である、故イエール大学名誉教授・朝河貫一博士(明治6年[1873]生まれ～昭和23年[1948]没)ですが、実は、彼には知られざる一側面が、つまり、一人の女性の手を求めて、朝な夕なの、身も心も、という熾烈な、大恋愛の時期があったことを皆様、ご存知でしょうか。

それは、博士(以下、朝河)が、(奇しくも)論語によれば、〈不惑〉の歳(40才)を超え、まさに〈天命を知る時期〉(50才)にほぼ相当する、彼の45才～51才にかけての7年間のことで、その期間こそは、正に、「胸のときめく期待と、焦燥と、そして煩悶の日々」であったように観察されます。その間、朝河はその女性に、(推定)100通近い(長大なる)求愛の書を捧げているのであります。あえなくも悲恋に終わる、朝河の、その憧憬の恋人とは、ベラという名の、東京に住む二世アメリカ人女性でありましたが、特にその後半の時期に書き送った文面は、時に、声涙共に下る〈魂の叫び〉といった趣きを呈しております。

以下、朝河の膨大な資料から、その肉声(原・英文)のごく片鱗(一端)を(ベラの幾つかの返信を含め)辿りながら、その経緯をひも解いて見たいと存じます。

\*は、筆者の「注」を示します。

II. 曙光と期待の日々

①大正7年 [1918] 4月8日 (月)

朝河発信：(散歩先で書く)……そんなに、私のことを想って下さり、また

そんなに、信頼して下さっていると、本当に感謝の気持ちで一杯です。こんな私でよろしかったら、どうぞ遠慮なく、心と思いの丈(たけ)を私にぶつけて下さい。しかし恐らく今ごろは、あの運命的な手紙(\*朝河の書き送った「愛の告白の手紙」を指します)を手にされたでしょうから、貴方の現在のお気持ちに沿って、いかように私を罰して下さいても結構です。私は「禁断の聖域」に足を踏み入れた男です。しかし、両膝を屈してお願いいたします。この際、少なくとも「友人としての私」を放逐したりせず、どうぞ、私の今後とるべき態度を、私にご指示くださいませ。ご命令の通りに致す所存です。……私は、すっかり落ち着きを失い、あてもなく、往來をさまよっています。鎌倉からネクタイなしで、近郊へ足を伸ばしてしまっただけです……  
\*彼の純真で、初心(うぶ)な心情がうかがわれる一節です。

②同日 大正7年 [1918] 4月8日 (月)

朝河日記より：……共に辿ったこの道、共に座し、そして眺めた、この思い出に彩られた「森戸」の地よ、さらばだ。……金曜日に、共に座した場所にすわる。その時、姉か妹のように私を慰めようとしたが、思わず、その手を止めた所。ああ、この懐かしい場所よ、さようなら。この青空の下で、二度とふたたび、私たち二人は、同じ信頼と愛情の絆に結ばれ、手を取り合うことはあるまい。あの至福の一(ひと)時は、あの場、限りで永遠に失われてしまったのだ。彼女によって、あるいは感じ取られたかもしれないが、私の口からは、終に発せられることになかった、私の、彼女への愛のことば! その一言こそは、やはり胸に秘めてこそ「悦びの花」であって、一度、口にしてしまえば、途端に色あ

せ、枯れしぼんでしまうものなのかも知れないのだ。ああ何ということ、私はしてしまったのだ。……私は新しい悲嘆の訪れに、息をつめて身をこらしている。

\*森戸：葉山町。神奈川県三浦半島の西岸にある町で、海水浴場として有名。

\*という所へ、ベラから手紙がやってくる。

③大正7年 [1918] 4月10日 (水)

ベラ発信：親愛なる「夢見る人」へ。……貴方があの手紙(4月7日付け)をお書きになった時、夢を見ていらっしやったのではないですか。貴方が、あんな事をお書きになるなんて、とても考えられないことですもの。あの発信人がもし、貴方でなかったら、多分、わたしは、強い叱責の文章を書いていたことでしょう。……砂ひと粒ほどの値打ちもない私より立派な女性は、この世には、何千人もいらっしやるということを、思い出して下さい。でも私は、貴方にもっと、私のことを知って頂こうと思いますわ。……いずれ、そのうちに、私に対するお気持ちも、きっと現在とは違ったものになることでしょうし……\*ここには、朝河の求愛に対する、ベラの率直な驚きと戸惑いが見られます。

ここで、ベラからの手紙を2～3紹介しますと、

④大正7年 [1918] 6月30日 (日)

ベラ発信：Dear Asakawasan(\*原文のまま)今、午前5時です。けど、目がすっかり覚めてしまって、なにやら、お便りを書きたくなり、鉛筆で書き始めました。……スズメが起きるよう、さえずっています。また眠ろうと思います……眠くなってきたので、では又ね。\*最後の部分の原文=Sandman has come, so au revoir.

まる一日を、つまらない手紙書きに過ごしてしまいました——コトバの羅列で何の意味もない——ちょうど私みた



和菓子司  
銀座 三万石 東京都中央区銀座6-4-8 TEL.03-3575-0007



つぶ館に栗の小粒をあしらひ、自然海塩で塩味をほのかにきかせました。



いね。私のこと、少し分かってくれたようで、嬉しいですね。私はあまりやさしくもないし、御しやすい人間でもないでしょ！モーダブ、アキレテオイデニナツタデショー（\*原文=Mo daibu akirete oideni natta desho.）早くお暇しようとなさったのも当然ですわ。ところで、その前に、以前おっしゃった、私へのお仕置きのコトバを聞かせて頂けないかしら……冗談はさておき、もっと真面目になった方がいいわね……

……今、7時半になった所です。ところで、貴方も間もなく、東京を離れるわけですし（\*朝河は同年7月15日、奈良・京都など関西方面の調査のため東京を発つことになりま）きつと、私と何処かへ遠出をされたいのでは、と思います。そこで、ご提案ですが、今度の火曜日（\*今日は6月30日です）にコーノダイ（\*千葉県市川市の国府台かと思われま）へ出かけて見ませんか。とても涼しいように思えるのですけど、如何でしょうか。他にご希望の所がございましたら、何処へでも喜んでお供します。でも、たった一つ、地獄の国だけは、ご遠慮いたしますわ。……現在の私には、暑すぎてどうも……ハハハハ（\*この部分、原文=ha! ha!）

もし、お差し支えなかったら、上野駅の近く、この前、お会いした所（私が路面電車から呼びかけた所）に、今度の火曜日、2時30分に迎えに来て下さい。別にご連絡がなかったら、なるべく2時30分に近く、私はそこに行っていますから、その時刻の一寸前に、そこに居て待って下さい。もし行けない時は、月曜日の夜、お電話くださいね。どうか、火曜日にお会いできますように。ベラより。

\*この辺の、例えばベラが、フランス語(au revoir)を口走ったり、さらには冗談が飛び出したり、はた又、女性の側からデートの誘いがかかるほどの、

「両者のいい関係」からは、後年の、暗澹たる雲の垂れ込めたような、苦汁と煩悶の日々は予想すべくありません。この頃が、ご二人にとって一番幸せな時期だったのではないのでしょうか。

ちなみに、次の書簡は、ベラが背負っている問題と、揺れ動く彼女の心を伝えるものです。

⑤大正7年 [1918] 7月20日 (土)

ベラ発信：Dear, dear friend, …彼の（\*ベラのかつての恋人を指します）夢を見たら、彼の妹が訪ねてくるなんて、奇妙な巡り合せに思えるのです。そして彼が受けつつある大きな苦悩も、私に一半の責任があり、いつも責めを感じています…そして更に奇妙に思えることは、私の愛情があげて、別の男性に向けられているというのに、貴方という方が、突如、私の前に現れて、この「無」に等しい私を、心にかけて下さる事です。それは、ひとえに、神の思し召しで、神様は私を慰め、且つすべてを打ち明け得る、精神的な支えと救いの手を、差し伸べて下さったのだ、と確信しています。……

しかしながら、不幸なことに現在の所、貴方がお望みのものを、私はお上げ出来ません。こんなに彼が好きでたまらない理由は、何もないのに、何故か、その気持ちが収まる気配は無いのです。私の全存在から、この気持ちを取り除くことが出来たら、と願うばかりです。どうぞ、この、私の気持ちを清算できるようにして下さい。それが私にとって、貴方のなし得る、何よりの救いの手です。（\*最後の数行間に、彼女の「揺れる心」が漂っているようです）

\*時移り、明けて 大正8年（1919）、刻々と帰国（離日）の日は、近づけばかりですが、両者の関係に、進展の跡は見られません。

⑥大正8年 [1919] 8月4日 (月)

朝河発信：たまらなく淋しい……意気は消沈し、私の心は病み患っています……貴方の居ない東京なんて、私に

とっては砂漠の町に過ぎません……貴方の存在が私にとって、如何に大きいものか、つくづく知らされました……（\*一時的にベラが、三浦半島の葉山に避暑中の書簡と推察されます）

⑦大正8年 [1919] 9月6日 (土)

朝河日記より：……この日以降、ほとんど毎日、ベラと会う……

⑧大正8年 [1919] 9月12日 (金)

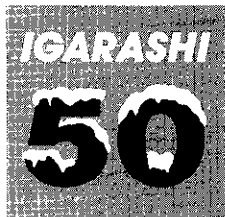
朝河日記より：午前中、（私は）「では、出発するから……」（=アメリカへ）と、ベラへ電話する。私の声は思わず息が詰まっている。彼女の声も、向こうの電話口で泣いている。「でも、父がそばに立っていたので……」（とは、後の彼女の説明である）。横浜に行くが、再度、悪天候のため出港が延期となったので帰京し、喜ぶ彼女に電話する。彼女と二人きりで夕食をとる。別れ際にレストランの入口のドアに、半ばその顔を隠して見せた、彼女の輝く瞳（ひとみ）、それが私が見た、彼女の最後の姿だった。

### III. 焦燥と暗黒の日々

\*以下は、朝河、帰国（帰米）後の音信です。

⑨大正8年 [1919] 11月28日

朝河発信：……この癒しがたい孤独から逃れるべく、私は、私の仕事に没頭する他ないのです。そして、結局、「仕事」が、私を淵から引き上げ、支えてくれる力となっている現状です。この「仕事」がなかったら、私は何をしたらよいか見当もつきません。おそろく、人生に耐え切れないことでしょう。貴方は、他人のために働け、とおっしゃる。でも、どんなに懸命であれ、ただ他人のために働く、というだけでは、私には満足できず、どこか必ず、さらに孤独感を深めることは必至です。というのも、私の生来の性格は、単なる利他主義に止まらず、この「私の魂」の提供と共に、（なろうこと



## 五十嵐冷蔵株式会社

〒108 東京都港区芝浦二丁目10番5号 ☎ (03) 3451-1111 (代)

吉田 弘俊 (52期)

なら)「他者の魂」をこの手にしたいのです。私は貴方にこそ、この「私の魂」を捧げたく思っているのですが、それにはどうすればよいのか、また貴方がそれに応じてくれるかどうか、分からない……だから、私は悲しく、淋しくなるのです……ああ、それにしても、たとえ、私が貴方にお会いしても、矢張りまた、私は、自分を抑えてしまって、この、燃え盛り、はち切れんばかりの、私の胸の内を、打ち明けことが出来ないのでしょうか。この時空の隔たりは、(時が経ち、離れていればこそ)、ますます貴方を求める気持ちが抑え難く、高まる一方の、今日この頃です。貴方のお許しを得て、貴方を心おきなく貴方を愛せたら、私の心の重荷は如何ほど休まることでしょうか。でもそれは、貴方が私の真情に応えてくれない間は不可能です。……

私たちの愛が完結し(貴方が私の愛を受け入れてくれ)、その(愛の)表現が自由に、伸びやかに発現される時、その時ようやく、私の人生がスタートし、元気はつらつと勇気をもって、前進することでしょう。(そうはなっても、私は凡庸な一人の男ではありません(しょうけれど)。しかし、そのような時が、果たして、私に用意されているか否かは、神のみが、貴方の心の中に秘め給うた謎です。そして、私は、それが貴方によって、いずれか一方に選択され、解き明かされるまで待つ他はないのです。……

\*朝河の真情が吐露されている「くんだり」です。一途な(彼特有の)「理想主義的、完全主義」と共に、その「魂の叫び」ないし「慟哭(どうこく)」は涙を誘います。

\*明けて翌年の半ば、朝河の沈痛なうめき声が、大洋を越え、ひびき「渡り」ます。

⑩大正9年 [1920] 7月14日 (水)

朝河発信：ずいぶん長いこと、お便

りを頂けなかったので、何か気にさわる事でもあったのでは、と恐れています。確かに私は、軽蔑され、嫌われることも十分にあり得る人間です。しかし、理由を明示されずに見捨てられることは、到底、私の忍び難いところ(personal devotion)という支えなしには、生きてゆけない男です。そんなわけで、私は徐々に、窒息状況に追い込まれ、偏狭で陰うつな人間へ、そしてやがては、心の冷たい、陰悪で不快な、地上の役立たず、厄介物へと私は化してしまうことでしょう……(\*最後の沈痛な一節には、言うべき言葉を知りません)

⑪大正9年 [1920] 8月22日 (日)

朝河発信：……大いなる神は、貴方という人格を、私の個人的献身の対象として私に与えて下さったのです。だが貴方は、その心やさしさにも拘わらず、この私の真摯な要請に答えてはくれない……かくて私は、人生の歓喜のほとぼしりを掴み得ず、唯一の逃げ場を、私の仕事に見出すのです。あらん限りの力を振り絞って、わたしは仕事に没頭しています。社交生活も、名声も、世俗的功利も、一切わたしには、興味がありません。ひたすら、私の仕事とその発展のみに、全エネルギーを傾注しているのです……結局のところ、この仕事なるものは、私にとって避難所に過ぎないものです……

⑫大正10年 [1921] 4月10日 (日)

朝河発信：……クリスマスの当日、貴方とお父上に手紙をしたためました。お父上からは、ご返事が来ましたが、貴方からは、音沙汰なしです。そのため、私の意気はすっかり消沈し、すべてが宙ぶらりんで、肉体的にも金

銭的にも、敗残の身です。私は、以前の自分の、うつろな一断片か、影になった実感です。この、最も残忍な苦汁を、理由も無しに、これ以上ひき伸ばされるよりは、いつそのこと、失望と絶望の奈落の谷へ、突き落とされた方が、どんなにマシか分かりません。幾度申し上げたことでしょう。——私たちの間の「合い言葉」は、「率直さ」(frankness)だ、ということ。

……貴方は遠く、異郷の地にあって、墓石のように黙して語らない。このような暗黒の夜には、世界(世間)と私は、共に相互への関心と興味を失い、私は、この孤立した私自身を忘れたばかりに、必死になって、知的な研究に精根を打ち込む、無用の人間と化してしまいました。

次第に、私は追いつめられ、自分の小さな殻に閉じこもるようになり、今や、心の冷たい、陰気で、全く世間に見捨てられた存在になった心地です。拝みます。お手紙を下さい。哀れと思し召して。(Now, pray answer, for pity's sake)

\*声涙ともに下る、朝河の「絶叫と哀願」です。

#### IV. 傷心と哀愁の別離

\*ところが、突如として意外な出来事が出現します。

⑬大正13年 [1924] 6月2日 (月)

朝河日記より：……全く思いもかけず、ペラからの手紙を郵便受けに見つけた。16日バンクーバー着、エンプレス・ロシア号で来る、と手紙に書いてある。再会の大きな喜びを述べ、何度も、何度も——何百回も、書いては捨てた手紙のこと、こんなにも長い間、音沙汰なしに過ぎた非礼を詫び、お会いの節にすべてを話したい……と書いてある。

そこで、私は、彼女の提案通り、バンクーバーに返事を送る。

『懐かしいペラよ、貴方のなつかし

## 公認会計士 星 武典 事務所

ムアーズ・ローランド国際会計事務所所属

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2丁目5番地 (KSビル3F)

TEL(03)3291-8361 FAX(03)-3291-8465

E-mail Address:cpahoshi@st.alpha-web.or.jp

星 武典(58期)

い筆跡を封筒に見て、自分の眼が信ぜられない想いでした。心のこもったお手紙を読みながら、私の心の中には、貴方への恨みの感情が、全く無いことに気がきました。すべては、霧散してしまいました……』\*この「途方もない寛大さ」に、朝河の、一途に思いつめた「恋慕の情」の深さをかいま見る想いがいたします。

\*かくて、二人は大正8年(1919)9月以来、ほぼ5年ぶりに再会するのですが(=この年6月23日)、その後二人はほとんど連日、デートを重ね、しばしば深更(午前1~2時)まで語り合います。ただ、事態の推移は、あまり芳しくなく、要するに、次のような次第で、一向に、進展は見せないのであります。

⑭大正13年[1924]6月28日(土)

朝河日記より：彼女は、私が堅苦しくて、感情を素直に表現しない(undemonstrative)と、こぼす。そう言えば、これまで彼女の手に触れたことも殆どない。そして彼女は言うのだ。そのため、言いたいことも口に出るなくなり、その悲しさに夜もよく眠れず、幾晩も泣き明かすのだと。月曜日は、早く来て欲しい、との事で、グランド・ホテルで会う約束を電報で打つ……

\*そして遂に、来るべき日がやって参ります。

⑮大正13年[1924]12月11日(木)

朝河発信：(デートの後で、ニューハンプシャーの自宅で書く)

可哀想な、いとしい友よ。疲労と悲嘆に打ちのめされつつ、帰宅したところです。

貴方は、自分の気持ちを十分に分かって貰えないまま、この私を後にして、アメリカを去ろうとしている——その貴方を想うと、胸が痛みます。ただ実情は、決して貴方が考え、捉えているようなものじゃない。今のところは、貴方に分かって貰えないけれど、恐らく何年か経って初めて、ああ、こういうことだったのか、と思い当たり

納得が行くこともあろうか、と私は、いま私の蒔いた種が芽を吹き、実を結ぶに至ることに、(今はただ)望みを託すのみです。

普通の女性には自明で、まことに単純で基本的なことであるのに、そのような、日常的で普遍的な情感や、人間性に固有な、素朴で原始的な感性を、自らに禁じ、抑圧して来た貴方に対しては、私としては、その心の中に、ささやかな種を蒔くことしか出来なかったのです……(中略)……貴方と、貴方のお仕事に、神のご加護を……わたしは、私心なき愛情をもって見守りましょう。もし、このような成り行きに終わることに満足されなかったら、その成り行きへの決断は、他ならぬ貴方のそれであった、という事を想起して頂きたいと思います。このような条件下で、私に残された唯一の態度は、いま申し述べた通りです。他にどんな方法があるとお考えですか。もし、言い尽くさない事があつたら、お手紙を下さい。あなたの朝河より。

追伸：何年間も、お会い出来なろうと想うと、深い哀しみに包まれます。ああ、いとしい、いとしいベラよ！神のご加護を！

#### V. 朝河貢一とベラの出会いについて

このような次第で、朝河氏の7年間にわたる、ベラへの純愛物語は、「第二のミリアム」を、との悲願も空しく、別離という、unhappy endingを迎えるわけですが、それにしても、朝河の、ひたむきで、一途な、そして朴とつな(あるいはギゴチない)、その「愛と恋」の軌跡は、余りにも、美しく、悲しく、そして痛々しいと、という感じがいたします。

二人の辿らねばならなかった「成り行き」について、筆者なりのコメントを述べます前に、朝河・ベラご両人の

出会いの事情と、その背景などについて、若干の解説が必要かと思われま

す。両者の「運命的な出会い」は、大正7年[1918]1月のこと。前述のように、朝河45才の時でした。その5年前、妻ミリアム・J・C・ディングウオールと死別した朝河が、日本の中世史研究のため、帰国(第2回帰朝)中のことでした。ちなみに、彼は、大学院(イエール大学)時代に知り合ったミリアムと結婚しますが(当時、朝河31才、ミリアム26才)、結婚生活8年にして、彼女は病死。子供はありませんでした。

一方、ベラはその2年前(大正5年2月)に、麹町土手3番町に、その夢(=日本の幼児教育)の学園(現「玉成学園」(東京都杉並区松庵)の前身)、を創設、その玉成学園(その名称は、「玉と成る」にちなむ)の園児は、第3期生入学当初の頃で、ベラは当時、(9才年下の)36才でした。

その後、7年にわたる両者間の「めくるめく」ような「悲恋物語」は、以上に概観した所ですが、実は、この二人は奇しくも、その23年前、同じ明治28年[1895]という未だ、相見ぬ時期に、新しい世界へ飛び立とうとしていました。同年、朝河(21才)は、7月10日、東京専門学校(現、早稲田大学の前身)を首席で卒業、12月7日に横浜港より出港、一路、アメリカという新天地に旅立ち、他方、ベラは12才の身で、まだ見ぬ父の国、アメリカはフィラデルフィアへと、その生涯のコースを決する新世界へと、同じく横浜港から、同様に巣立ったのであります。

ここで、ベラについて、簡単に触れておきますと、その名をソフィア・アラベラ・アルウィン(Sophia Arabella Irwin)といい、明治15年(1882)、アメリカ人を父とし、日本婦人を母として出生しました。父、ロバート・アル

## 株式会社 東京シンクサービス

●業務 特許公報の抄録・翻訳、工業技術の指導・調査

●特色 高齢者の雇傭  
(全従業員91%が60才以上、70才以上は54%)

〒101東京都千代田区内神田2-13共同ビル

電話 (03)3254-5805

相談役 鎌田 正二(43期)

ウィン (Robert Walker Irwin) は、フィラデルフィア出身、かの有名なベンジャミン・フランクリンの後裔で、その若き日 (22歳) に来日後、日本の海外貿易や海運業に多大の貢献をし、明治の元勳諸公・知名の実業家とも親交があり、また「ハワイの父」とも呼ばれた人物 (ハワイ初代公使) であります (勲一等旭日大綬章)。

ところで、そのベラであります、いま述べましたように、明治28年 (1895)、12才になったベラは、父に連れられて渡米、フィラデルフィア市ハミルトンに住む父の母 (ベラの祖母) の許に身を寄せることとなります。父の希望で、アメリカでの正規な女子教育を受けるためです。そしてベラは、9月の新学期から、同市のマダム・サトン女子寄宿学校 (アメリカの上・中流の女子に一般教養を教える、日本の高等女学校に当たる全寮制の学校で、その躰 (しつけ) の教育は、実にきびしい、徹底的なものだったようです) に入学します。ベラの成績はといえば、卒業までの5年間、常にトップでありました。

ただ、その一方で、折りある毎に自分の出生を思い知らされて、独り、悲痛な苦しみに耐えねばならなかったベラでありました。アメリカは自由独立の気風の国ではありましたが、人種偏見は根強く、白人優位の観念が広く浸透していました。有色人種に対しては、本能的な嫌悪感や蔑視感を、大部分の人は抱いていたのであります。

ここで、ベラをこよなく愛してくれる祖母に、ベラは、大いなる感化を受けることとなります。この聡明で、熱心なビューリタンである祖母は、ベラが自分の混血児という事実に対して、劣等感や孤独感を抱くことなきようにと、心を砕き、深い愛情といたわりを

込めてベラに教育をしたのです。幼い、純真なベラの魂にとって、祖母の語る、平易な神の存在の証明は、乾いた海綿が水を吸うように、砂漠に雨が染み透るように、若々しい感動と驚きを呼び覚ますのでした。因みに、ベラの生き方 (幼児教育の専門家への志) を左右したものの根本に、この「混血」という事実・桎梏 (しっこく) があることを見逃すべきではないでありましょう。現代とはまるで隔絶した、大変な問題性を、それは、包蔵していた時代だったのであります。

後日、ベラは、淡々と次のように述懐しております。「言い表すことも出来ない、両棲類的なコンプレックスが私の心にあります。私は、日本にいても純粋な日本人でいられないし、アメリカにいても矢張り、純粋なアメリカ人ではいられなかったのですよ。どっちにも属さない、不安定な感じと戦うのに、時々、私は疲れ果てました。私の祈りは、そんな時、果ての無い、グチと嘆きのくり返しなのでしたよ。キリストを知らなかったら、多分、私は自殺したかもしれません」と。

ところで、そのベラは、一家の中で長女であり、頭が良くて、年齢の割に直観が鋭く、判断力や分別があったので、幼少時代から、母の良い相談相手でした。その母イキは、病弱な、(ベラの) 二人の弟と三人の妹をかかえて、応接にいとまもない忙しさです。大勢の使用人たちの間にも、何かしらイザコザが絶えません。父の仕事の上から交際の範囲が広く、日本人、外国人を問わず、様々な階級の人たちとの社交も、万遍なく手落ちなくしてゆかねばならず、多摩川の別荘、伊香保の別荘の管理など、母は内に外に、瞬時たりとも、心も身体も休まる暇のない状態だったのでした。

ベラの第一回アメリカ留学中、その母は、ほとんど毎日、ベラに便りを書いています (仕事の合間に書くために、一通の手紙を (＊毛筆「変体がな」で巻き紙に) 書くのに5日かかるときもあります)。母は家庭内のあらゆる出来事、父との間の微妙な感情問題や、意見の相違などまで、すべてを打ち明ける、といった、ベラへの信頼 (あるいは、甘え) ぶりでした。弟妹のことなども細々と報告し、早くベラが戻って、母を手伝って弟妹たちを教育してくれ、到底、自分の手に負えない重荷であるから、と切々と訴えています。

事実、長妹のメリーなどは時々、発作を起こし「ママは何故、私を生んだの。私は産んで欲しくなかった」と狂暴に母を責め苦しめ、父や弟妹を、そして家庭全体を、暗い、救いようのない状態に追い込んでいたのでした。

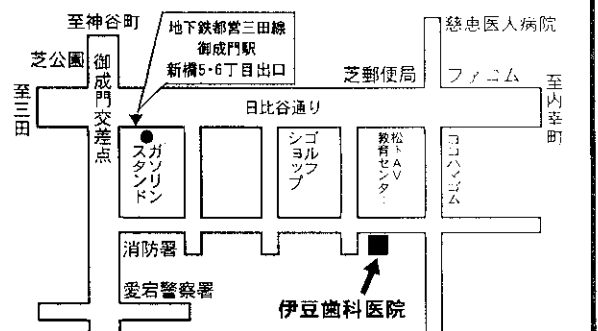
そのような家庭内外での環境に在って、彼女は心ひそかに悩み、苦しみます。そして真剣に自分の生き方を模索した挙げ句、再度のアメリカ留学を決意した時、両親に対し、その粘り強い、断固としたベラ一流の説得を開始します。

「私はもう暫く、結婚のことは考えられません。(母の最大の望みである自分の結婚については、その全否定的表現だけは、遠慮したそうです) 伊香保の子供たちが、私の心の目を開いてくれました。私は幼稚園の先生になって、何時も子供と一緒にいたいのです。私は一生懸命に、子供のための専門の勉強をして、良い先生、そう、最良の先生になりたいのです。そして子供に神様を知らせ、子供を通して、その親御さんたちにも、神様の存在を知らせたいのです。その勉強にどうぞ、もう一度、私をアメリカにやって下さい。ベラの一生のお願いです」と。

## 伊豆歯科医院

東京都港区新橋6-2-8  
TEL. 3434-0231  
74期 伊豆 秀雄

- ◎健保取扱い
- ◎電話予約制
- ◎休診日/木・土・日・祝日
- ◎診療時間/10:00~13:00 14:00~17:30



当時アルウィン家では、大勢の子供をアメリカに留学させているので(弟の二人は、プリンストン大学へ。次妹のメリオンはボストンの学校に在学)、経済的な父の負担は、毎月莫大なものでした。世間知らずのお嬢様であっても、ベラにもその事情は、よくわかっていました。それで自分のためには、最少限度の学費でよいから、是非もう一度だけ出して貰いたい。自分は、衣服も住居も、食事も、最低のもので我慢します。小遣いも、及ぶ限り節約をして窮乏に耐えるから、専門的な学問や、研究だけを是非させて貰いたい、と心をこめて両親に願い出たのであります。

かくて彼女が、本格的に幼児教育者として、プロフェッショナルへの道を歩むべく、再度、アメリカ留学に踏み切った時、彼女は一切の思いを断ち切って「自分は一生涯、結婚はしない。自分の肉体も精神もすべてを神に捧げ、み心のままに生きよう」と決心します。そして明治39年[1906]11月5日、きびしいプロへの道を目指し、横浜出帆の日本郵船・天洋丸で再留学の途についたのです。当時、彼女は24才。年めぐり、やがて明治44年(1911)6月1日、ベラは、ミス・ハート・トレーニング・スクールを、優等賞を受けて卒業。ここに、幼児教育への公の資格が認可されたのです。ついでながら、後年、向学心に燃えるベラは、自分が大いに心酔し、その研究を志していた「フレーベル」(1782-1852、ドイツの教育家)のフランクフルト(アム・マイン)の「ペスタロッチ・フレーベル学園」その他への、1年半にわたるヨーロッパ留学をも果たしております。胸ふくらませて、大いなる成果を手にし、大正3[1914]年11月、快心の帰国。時に、ベラ32才のことでした。

ベラの、数奇な生い立ちと人生、その感動的な生涯については、下記の『注』をご参照下さい。その彼女は、75歳の生涯を閉じる「寸前」まで、日本の幼児教育(幼稚園の設置と、その保育者の養成所開設)に、全力を挙げて献身した希有(けう)な人物であります。この若い独身の混血女性は、徒手、空拳で、ただキリスト教の信仰と、使命感に燃えて、自らに課した、幼児教育の理想を、その道一筋に生き、その初志を貫徹したのであります。

「我はむしろ冷たからんか、熱さを望む、なまぬるきことよりは」

「目指すはただBestのみ、GoodにもBetterにもあらず」

これが、ベラの座右の銘でありました。ひたすらに、「最良を目指す」勉学であり、教育でありました。

ちなみに、ベラの教育理念である「最良(Best)の教育は、最良の教師による」との実践は、以下の保育学校創立当時の教授陣にも実証されております。彼女が、学校の設立に当たって、第一に考え、実行したことは、立派な校舎ではなく、新式の設備でもありませんでした。大勢の園児や生徒の募集では勿論なく、その第一が教師陣の整備だったのです。次いで、最も身近な、最も親しい、ほんの数名(12~3名)の幼児の確保だったのであります。「それは、ちょうど、あのフレーベルが、はじめてドイツのグリース・ハイムで兄の遺児をあずかって始めた「ドイツ子供の家」後の「Kindergarten」の創始時(1816年)のように、ごく僅かな幼児たち、ごく小規模な教育の場を持つことから始めようとしたのであります。

そのベラが、三顧の礼をつくして招聘した教師の主な方々は、以下のようでありました。

○心理学/文博・松本松太郎(東京帝

大教授)○児童心理学/文博・田中寛一(東京高師教授)○教育学及び教育史/文博・橋崎浅太郎(東京高師教授)○博物学(動物・植物)/平島権蔵(東京女高師助教授)○保育衛生学/医博・研(宇都野病院長)○談話学/久留島武彦(早蕨幼稚園長)○絵画及び美術史/赤津隆助(青山師範教諭)○彫塑及び陶芸/板谷波山、吉田三郎(帝国美術院会員)○木工/菊池儉(木工技術家)○音楽(ピアノ及び声楽)/原みち子(上野音楽学校教授)、渡辺トトリ(上野音楽学校教授)○数学/上野いし(女子学院教諭)○体育/メリ・H・マクロイ(米岡オーバリン大学卒)○生け花/鈴木健太郎(清芳流家元)

[未完、以下次号へ]

(宇都宮大学名誉教授)

## 船員昨今

大内 博文 (71期)

“クリスタル・ハーモニー”号が横浜港大棧橋に着いて居る。この船は、米ロスアンゼルス市に本社のある客船会社の船で、姉妹船の“クリスタル・シンホニー”号と2隻で、世界の海をクルージングしている。

毎年この時期になると、極東・アジア・オセアニアクルーズの途次、交互に日本に寄港し、その美しい船体を披露して、船キチ・海キチを喜ばせてくれる。客船にも格付けがあり、両船共〈ファイブスター・プラス〉の最高クラスである。

平成10年9月24日、16:30乗船中の機関長を訪ねた。彼は日本人である。ボーディング・ブリッジより一步船内に入ると全くの別世界、静かな中にピアノの音がゆつくりと流れている。インホームション・カウンターにて機関長を呼んで

# 小橋クリニック

院長 小橋主税 (86期)

福島県須賀川市仁井田大谷地172-3  
TEL 0248-72-1555



もらい、約3時間グラスを空けながらの昔話を時を忘れかけていた。ハーモニー号は、日本の長崎で建造された船であるが日本船ではない。乗客約650人、乗組員は約400人、20数ヶ国位の国籍とのことである。言葉、習慣、宗教、教育それぞれ異なる人々が、同じ目的の為に働いているのは、素晴らしい事である。

昭和33年3月、71期生として安積高校を卒業、縁あってか商船大学から海運会社でエンジニアとして、乗船勤務・陸上勤務をくりかえし、2年前から現在の曳船を主とした造修繕業についている。

入社当時は、現在、横浜市の山下公園に係留されている氷川丸が、現役を引退しその余生を今のすがたになった頃である。当時は、1万トンクラスの雑貨船が主流で乗組員も50人位、エアコンもない時代であったが時間はあった。ハード・ソフト両面共に現在の大型化・専用船化・高速化そしてハイテク化された船ではなかったが、船乗りとしての面白みはあった。真っ青な海と灼熱の太陽・船側を叩く様に飛び散る夜光虫のマツカ海峽・砂漠を航海しているスエズ運河・エーゲ海とコートダジュール、何処に行っても海は汚れていなかった。また、その頃は海外旅行も自由ではなく、お陰様で日本人に出会うこともなく、遠慮なく見物させて貰いました。ギザのピラミッド・アテネのパルテノン神殿・バルベックやエベソスで古代遺跡発掘の現場・オデッサのオペラハウス・ローマ・パリー・ロンドン・テーブルマウンテンの真っ白なテーブルクロス・上海での文化大革命デモ・ワシントン見物した航海の八幡港で聞いたケネディ大統領暗殺のニュース・パナマ運河通航時ガツン湖の水が無くならない不思議・ベーリング海での船体に付着したツララ等々驚いたり、感心したりまた楽しい思い出がありました。

しかし、残念ながら現在の船乗りには、乗船中そんな余裕もないようだ。グローバル・スタンダードのなかで、日本の海運会社は国際競争力の戦いをしている。

日本籍船で日本人だけの乗組員が運航している船は、数えるほどしかなく大半は外国人との混乗で、それも極少数の日本人しかいない。海上輸送量を見ると、世界的には増加傾向にあり今後とも続くと予想されている。日本籍船は減少しているが、日本船社の支配している運航船腹は決して減少していない。しかし、日本人船員は極端に少なくなっている。昭和40年前半までは、ハード面もソフト面も現在ほど整備されていなかったが、貧しくとも時間があり、本船に任された自由があった。所謂、船乗りとしての人生があった。今は船乗りも、海外旅行は休暇中に飛行機で行く時代になってしまった。船員システムも代わってきたが、個人的にも船員を職業とする若者は少なくなった。

“クリスタル・ハーモニー”号の安全運航と乗船中のお客様皆様の素晴らしいクルージングを祈りつつ、リタイアしたら客として乗船する事を誓って友と別れた。

船は、お客として乗るものと気が付いた、還暦近い71期生です。

(京浜ドック(株)代表取締役社長)

## コレクション

糠沢 和夫 (68期)

わが家の二階のバルコニーには風見鶏ならぬ風見鯨が青銅の体をゆるゆると動かしていた。プリンストンの古道具屋で買って来たものだ。その脇には日時計があり、庭先にはジャコメッティのコピーの、盆を持った猫の置物

がある。雨を受けたこの盆の水を飲み、鳥たちがやって来た。

玄関にはマニラで買った一本影りの犬や豚がいて、ドアを開けるとそこにはアトランタの黒人のボーイとベルギーの人形が座っていた。

家に入ると、三階の屋根裏部屋まで続く陳列棚には海外に所用で出るときにホテルのアーケードで飛び込むようにして買った古道具が千点近く詰め込まれていた。インドの貴婦人が湯浴みする時に使った軽石らしき小物、イギリス紳士が使ったワイシャツの衿の皺伸ばし器、まだスカートが長かった時代、イギリスの淑女が外出の際に使った鎖と輪でできたスカートリフター、どうしても使用方法がわからないアフリカの小動物用の罠、聖書を読む時に使ったらしい指つきの指さし棒…骨董のように高価なものではない古道具類ばかりである。

一見汚いこれらの古道具に関心を持つ大人はほとんどいなかった。で、時々、6、7歳の近所の男の子にチョコレートをあげて来てもらい、あれこれみせては説明していた。子供は私と同じようにこれらを面白がってくれたのである。

五月中旬、ハンガリーに赴任するについて、このうちの何点かを運んでもらった。「東南アジアと日本」というテーマで公邸に展示しようという魂胆である。

(新ハンガリー大使・前経団連専務理事)

『週刊新潮』'98年5月28日号より転載

彩色用ゴム製品で世界のトップを行く

工業用精密ゴム製品製造



本社 〒334-0073 埼玉県川口市赤井3丁目3番7号 Tel. 048-285-2251(代表) Fax. 048-285-2254  
大阪営業所 〒536-0016 大阪市城東区蒲生1丁目12番10号 京橋アドバンス21-205 Tel. 06-930-2521  
福島工場 〒969-0101 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地 Tel. 0248-53-3491 Fax. 0248-53-3493

◇創業 1970年  
◇資本金 2億8985万円  
◇株式会社頭登録  
◇ISO9001 認証取得

社長 伊藤 巖 (65期)

## 編集後記

●閉塞感に包まれた年の瀬にうれしいニュースが飛びこんできた。ラグビー部花園出場！ ついにやった。うれしい。同窓生悲願の甲子園出場に先駆ける快挙。結果は二の次。後輩達の活躍に目頭を熱くするばかり。この快挙をもって世紀末を乗り切ろうとするのはちょっとはしゃぎすぎか！

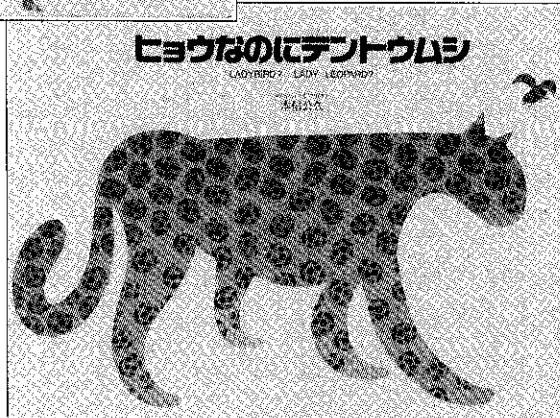
(81期 渡邊龍一郎)

●安積出身の系列では絵本作家は希少である。福大の熊田教授から同期の本信公久君の紹介を受けて今号を飾ることになった。わが東京桑野会の風潮からしてイカガナモノカとの声も聞こえ

そうだが、いいじゃないですか、実に明るくて楽しくて。視覚に快く響いて飽きさせない。それは基礎訓練の上に形が洗練されているのと、形の中に秘密が隠されているからである。ゼブラの白縞がウサギだったりする。エトでもある。そのウサちゃんを発見した喜び、ミエミエに隠しておいた秘密がバレってしまった作家の悔しさ。絵本とのニラメッコを通して作家の意図と鑑賞する人の間に「絵本遊び」の面白さを教えてくれるようだ。共学特集号的雄叫びの中にあつて一興かと思われる。

(74期 高松豊)

↓'90年ポーロニャ国際児童図書展グラフィック賞受賞



イラスト：本信公久 (75期)

## 事務局便り

●会報の発送は、会員各位の住所動向に大きく左右されてしまいます。住所が変わっていると、せっかくの会報も戻ってきてしまうので、住所変更の際は東京桑野会の事務局まで、ご連絡下さるようお願い致します。安積桑野会の方にご連絡された方も、ご面倒でも東京桑野会の方にもご連絡下さい。

●総会の出欠葉書を同封していますが、事務処理の都合上葉書には必ず住所、氏名、期を記入して下さい。時々ご自分の期と卒業年を間違えておられる方がいらっしゃいますが、会報をお送りした封筒の宛名ラベルの右下に記入してあるのがご自分の期ですので、お間違えないようお願い致します。勤務先は変更がなければ省略していただいても結構です。

そして、連絡もれもあるかと思われるので、お誘い合わせのうえ、多数のご出席をお願いします。

### 『東京桑野会会報』No.20

1998年4月1日発行

発行・編集人 ■ 澤田 悌

発行所 ■ 東京桑野会事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-3-8

YKB新宿御苑804

齊藤法律事務所 4F

Tel 03-3356-6677 Fax 03-3356-678

広報部 ■ 株式会社リュウ コーポレーション

〒107-0062 東京都港区南青山5-12-28-802

渡邊龍一郎 (81期)

Tel 03-3797-6602 Fax 03-3797-6603

製 作 ■ 株式会社パンオフィス

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-2-7

Tel 03-5280-9690 Fax 03 5280 9691



タカギフーズ  
アイドルキャラクター

選び抜かれた素材と確かな技術が生み出す逸品  
品質と食の安全性を追い求める

精肉・そうざい・ハム・ソーセージの製造販売

株式会社 **タカギフーズ**

店舗網：関東地区 18店(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県  
茨城県 他 静岡県・長野県 2店)

〒251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-4  
クゲスマファースト 4F

Tel 0466-26-2506 fax 0466-22-3977  
常務取締役 近内 靖夫(69期)